1951年７月20日第３種郵便物認可　2025年７月１日発行　毎月１回１日発行第75巻第７号　ISSN 0913―6134

農村と都市をむすぶ

座談会「令和のコメ騒動」と米政策の今後
　司　会　西川　邦夫
　報告者　小林　　肇
論文　二〇二五年度農林水産予算の特徴と課題
　神山安雄

2025年 7 月号　NO.880

編集代表　谷口信和

農村と都市をむすぶ　二〇二五年七月号（第八八〇号）座談会「令和のコメ騒動」と米政策の今後

一九五一年七月二十日第三種郵便物認可
二〇二五年七月一日発行　毎月一回一日発行　第七五巻第七号

農村と都市をむすぶ　頒価二一〇円　送料七五円

東京都千代田区霞が関一ノ二ノ一
全農林労働組合
農村と都市をむすぶ編集部
TEL　〇三－三五〇八－四三五〇

「たんばら高原のラベンダー」（編集部）

表紙の写真は「長良川の鵜舟と鵜匠」です。長良川の鵜飼は岐阜の夏の風物詩として有名ですが、その歴史は1300年以上前の702年に遡ります。当時の美濃国の戸籍に「鵜養部目都良売（うかいべのめづらめ）」という記述があり、以降、時の権力者達（織田信長、徳川家康など）による保護の下で伝承され、1890年には天皇家の御猟場として定められるに至っています。なお、意外と知られていませんが、鵜匠は宮内庁の儀式・交際・雅楽に関する職務を行う「宮内庁式部職鵜匠」という辞令を受けた国家公務員であり、これは岐阜・長良川鵜飼と小瀬鵜飼の９名に限定されています。また、鵜匠は誰もが就ける職業ではなく、鵜匠家に生まれた男性しか就けない「世襲」制です。長良川の鵜飼シーズンは毎年５月11日から10月15日まで。猛暑が続く昨今、ひとときの涼と篝火の下での幻想感を求め、長良川の鵜飼いを楽しんでみてはいかがでしょうか。

また、上掲の写真は、「たんばら高原のラベンダー」です。ラベンダーにはヒーリング効果があります。こちらも高原での涼と癒やしが得られる夏のスポットととしてお勧めです。

「農村と都市をむすぶ」編集委員会
（農林行政を考える会）

編集代表	谷口信和	東京大学名誉教授
編集長	安藤光義	東京大学教授
編集委員	服部信司	東洋大学名誉教授
	堀口健治	早稲田大学名誉教授
	神山安雄	農政ジャーナリスト
	小林信一	静岡県立農専大学名誉教授
	矢坂雅充	日本農業研究所客員研究員
	秋山満	宇都宮大学特任教授
	友田滋夫	日本大学准教授
	作山巧	明治大学教授
	西川邦夫	茨城大学教授